

コロナ禍のなかでの 高度医療の提供及び医療従事者の育成に向けて

京都大学附属病院をもっと身近なものにしていただき、多くの皆様と共に良い医療を作り上げていきたい。その思いから、病院内で行われている様々な活動をシリーズでお伝えしていきます。第1回目となる本講座では、コロナ禍で脅かされる日常診療と教育の現場について取り上げます。

2021年

参加費無料

要事前予約

日時

8月28日(Sat) 14:00-16:00 @Zoom

開会挨拶

14:00~14:15

講演

14:15~15:15

パネルディスカッション

15:15~15:45

質疑応答

15:45~16:00

QOLの
キーパーソン



山本典生 (耳鼻咽喉科)

京都大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 准教授
上気道手術中の新型コロナウイルス感染拡大予防対策

新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 感染の拡大は世界の経済活動をはじめ、生活のさまざまな場面のみならず、医療現場においても大きな影響を与えています。耳鼻咽喉科が扱う鼻腔はSARS-CoV-2が多量に検出される部位です。同様に耳鼻咽喉科の守備範囲であり、鼻腔とつながる口腔、中耳を含む上気道からは他の体の部位と異なり飛沫が容易に排出されます。このため、上気道の疾患の加療は、加療を行う医療者への感染を容易に起こしてしまいます。現在我々は、新型コロナウイルス感染流行下で、耳鼻咽喉科で行う上気道疾患の加療と医療者への感染予防を両立させるための研究を行っています。



今一度
医療の形を
再考したい



沼尚吾 (眼科 (緑内障・網膜色素変性))

京都大学大学院医学研究科 眼科学教室 助教

コロナ禍の弊害～眼科専門医の立場から医療における情報格差を見つめる～

新型コロナウイルスによる医療現場への影響は、感染対策や病床圧迫やワクチン接種といった直接的なものだけではなく、医療はその特性上、サービスの提供者(医療者)と受益者(患者・家族)との間に【情報格差】が存在する。ある程度はやむなしと言える。しかし、医療現場において新型コロナウイルス拡散対策として採られた「付添制限」「面会禁止」といった対策により、【情報格差】は大きくなる可能性がある。眼科専門医の立場から、コロナ禍により浮き彫りとなった医療における【情報格差】解決のためにできることを提案したい。



はたらく細胞の
守り人



新井康之 (血液内科学、造血幹細胞移植、細胞療法)

京都大学医学部附属病院 細胞療法センター 助教

研究開発のどこに資金が必要なのか?～「細胞療法の新規開発基金」を例に

我々のセンターでは、平素より細胞療法の新規開発に取り組んでいます。研究開発には多額の資金が必要とされますが、一体何に費用がかかっているのでしょうか?細胞療法研究に必要な機器、システム、人員などをご紹介します。医学研究の各場面でのような資金が必要かを説明いたします。その上で、クラウドファンディングを通して「細胞療法の新規開発基金」として多くの方から頂戴したご支援の活用予定をお示し、この基金を用いてすでに発表した成果についてもご紹介いたします。



熱意の
併走者



山本憲 (放射線診断科)

京都大学医学部 医学教育・国際化推進センター 講師

“触れる”VR教材システムを用いたコロナ禍での次世代型医師養成への取組み

臨床実習を通して必要な態度や技能を取得します。しかしながら、現在のコロナ禍に置いて、医学部学生の臨床実習が制限され、オンラインでの臨床実習に頼らざるを得ない状況です。医学部学生が自身を持って良い医師として第1歩を踏み出すために、そして何よりも患者さんに寄り添える技能・体験を持った医師を我々医学部が送り出すために、VR技術を用いた遠隔・自宅学習教材システムを始めとする様々な医師養成の取組みについてお話させていただきます。



コロナ禍での手術はあぶないしやめとき、てお父さんいわはるし・・・

付添制限されて、ますますおばあちゃんの病状分からんくなったわ

細胞療法って身近やないし、お金かかるってイメージ・・・

医学部の学生さんが手技学べてへんらしいけど、将来的に問題ないん?

みなさんにより良い医療をお届けできるように。京大医学部の医師たちがコロナ禍の臨床・研究・教育にどのような思いで向き合っているのか。本講座では聴講者の方々からの積極的なご意見・ご質問をお待ちしております!

共催 京都大学医学研究科「医学領域」産学連携推進機構 (KUMBL)

ミュージックセキュリティーズ株式会社 (MS社)

参加申込み 8月27日(金)までに以下のURL(もしくはQRコード)より参加登録をお願いいたします。

<https://forms.gle/NeSqM43M2mxPHSd7>

お問い合わせ 事務局 (KUMBL) : application@contracts.med.kyoto-u.ac.jp

